

河童とオッサンに 犯された姉貴

権田（近所のオッサン）

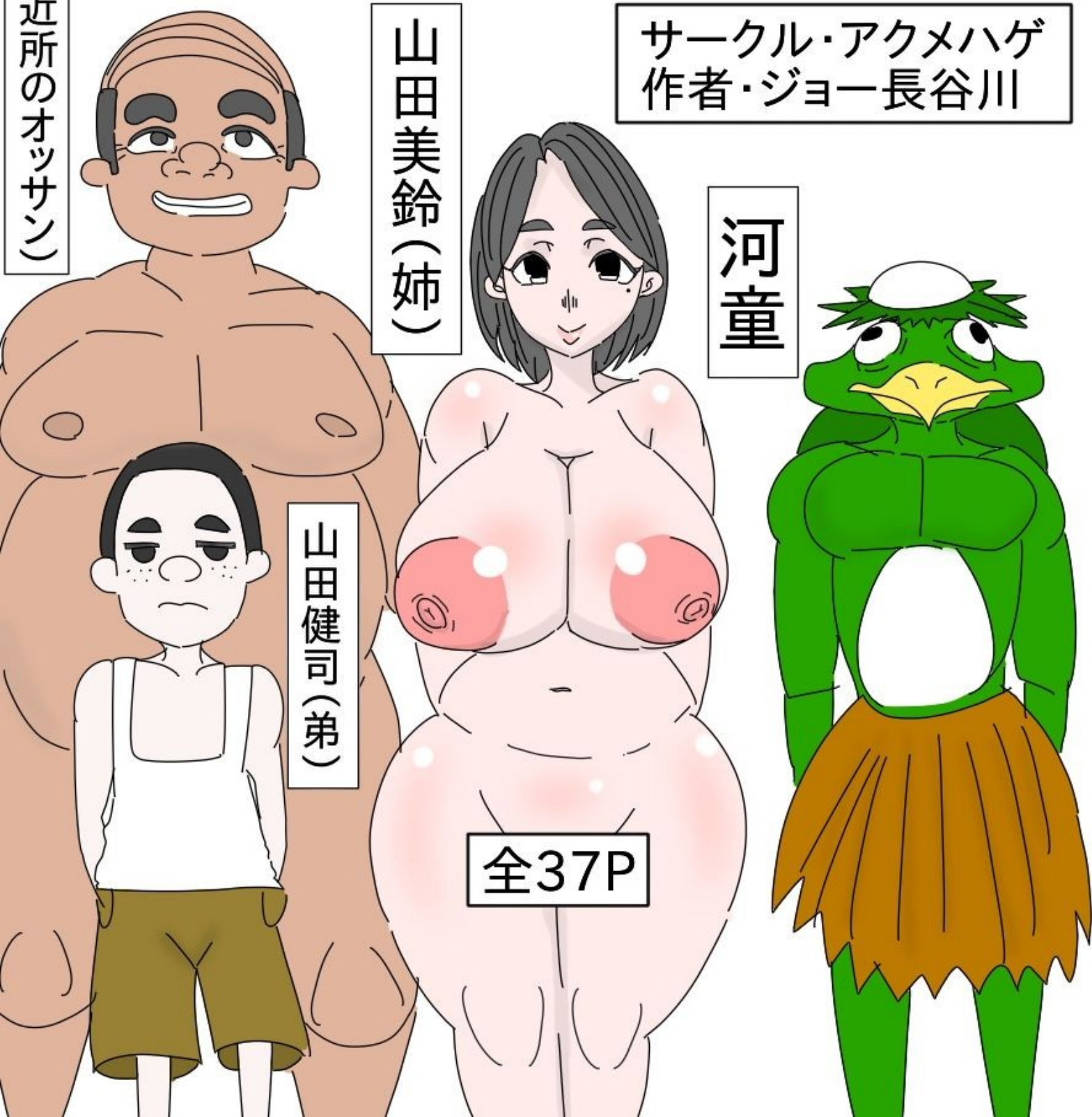
山田美鈴（姉）

サークル・アクメハゲ
作者・ジョー長谷川

河童

山田健司（弟）

全37P



んー、今月も厳しいなあ
そんなに食費は使って
無い筈なんだけど

どうしようかなあ

余計な出費は控えて
節約しないと……

なあ、姉貴

都会に逃げようよ
糞親父が残した借金なんて
俺たちが返す必要ないって

バカな事
言うんじゃないの

大人の世界は
そう甘くないんだから

いつもアンタは
「都会、都会」って
都会は魔法じゃないのよ

それに、この家はどうするのよ
長年住んだこの家が
残っただけでも有難いんだから

ボロっつい家
なんだから

いらないよ

はっ……
どうしてこんな薄情な子に
なっちゃったのかなあ
うちの弟は

昔はあんなに
可愛かったのになあ

ド
ン
ボ
ー
ン

はい！
今出ます！

やあ
美鈴ちゃん

あ！権田さん！
こんにちわ！

今月もいい野菜が
取れたもんだからね
河童様のお供えにする
『キュウリ』お裾分けに来たよ

まあ！
いつもありがとうございます
丁度買いに行こうと
思ってた所なんですよ！

どちら様ですか？

いつもいつも本当に助かります
ろくにお返しも出来ず、すみません

ははっ！
いいんだよ
姉弟二人じゃ
大変だろう

困った事があつたら
いつでも俺に
言うといいさ

今度は
スイカなんかも
持ってくるよ

もつとも

オジサンは
美鈴ちゃんのだ
たわわに実つた
大きなスイカが
食べたいけどね
ガハハw

もーっ！

権田さんってば
エッチな冗談
ばっか言つて！
怒っちゃいますよ！

ごめんごめん！
ガハハw

ポイッ

ポイッ

美鈴ちゃんの
元気な姿を
見ていると
『こっち』まで
元気になっちゃうよ！

？？？？

よくわかりませんが
権田さんが元気に
なってくれたのなら
良かったです！

ほらー！

ユサジ♡

プン♡

健司も
権田さんに
しっかり
お礼言いなさい！

ありがとう
ございました……

それから
しっかりキュウリを
河童様に
お供えしてくるのよ！

僕はこの村もこの村の人間も嫌いだ

山田の家の息子だぜ

よく町を歩けるな

親父が散々借金を
踏み倒したせいで
俺達姉弟まで
悪口を吐かれるし

アイツん家糞
貧乏らしいぜ

でもアイツの
姉ちゃんは爆乳で
エロいけどなw

村には若い女が居ないせいで
男共は姉貴を卑猥な目で
見る事しか出来ない
低能な猿の集まりだ

そして古臭いしきたりの
田舎文化も嫌いだ

この町の守り神として
奉られている河童に
キュウリを供えるというモノだ

毎回供えたキュウリは
無くなっているらしいが
野良犬やら猿やらに
食われたに決まっている

このテレビや電話が
普及している時代に
バカみたいな信仰をする村だ

極めつけにあの糞野郎だ
事あるごとに姉貴に
セクハラをしてくる

困ったなあ
どこに落とし
ちゃったんだろ

美鈴ちゃん
もうちょっと前の方に
落ちたんじゃないかな
屈めば見つかるよ

姉貴も姉貴で人を疑う事を
知らないから善意だと思ってやがる

そして非力な
自分にも

腹が立つ

無機質な石に対して
やつ当たりをして

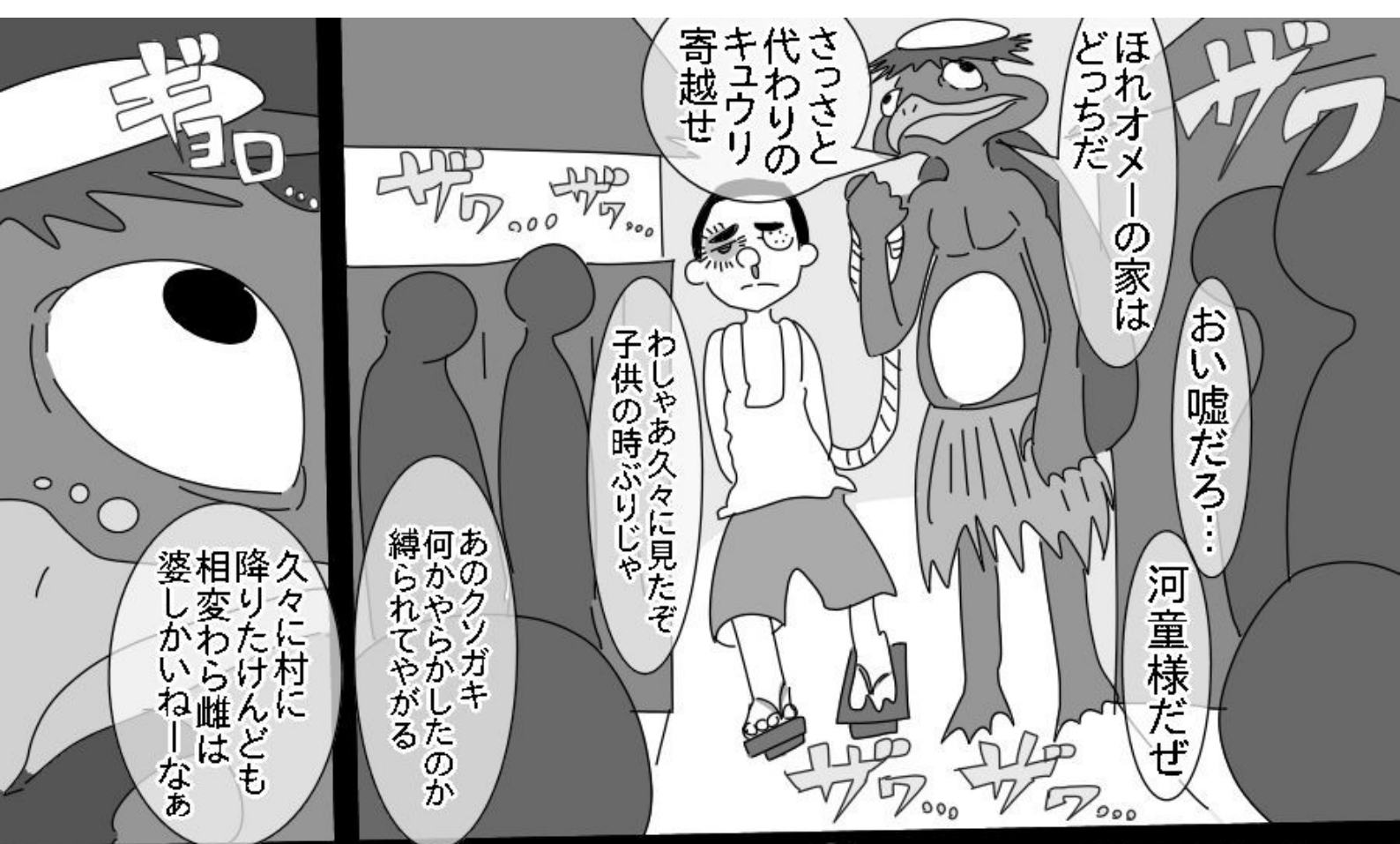
自分のうっ憤は紛れた

おい
坊主

しかしこれが
間違いだった

本当に
河童はいた

オラのキュウリ
食ってんじゃねーぞ



ってどうしたのよ
その傷！

うう……
実は……

ん？

いるでねえか
ベツピンな雌がよお

えっ？

クチバシ……？

なんつー
デカ乳だ

揉みくちやに
してやりてえ



ほっ
本物の

かつ
河童さ...

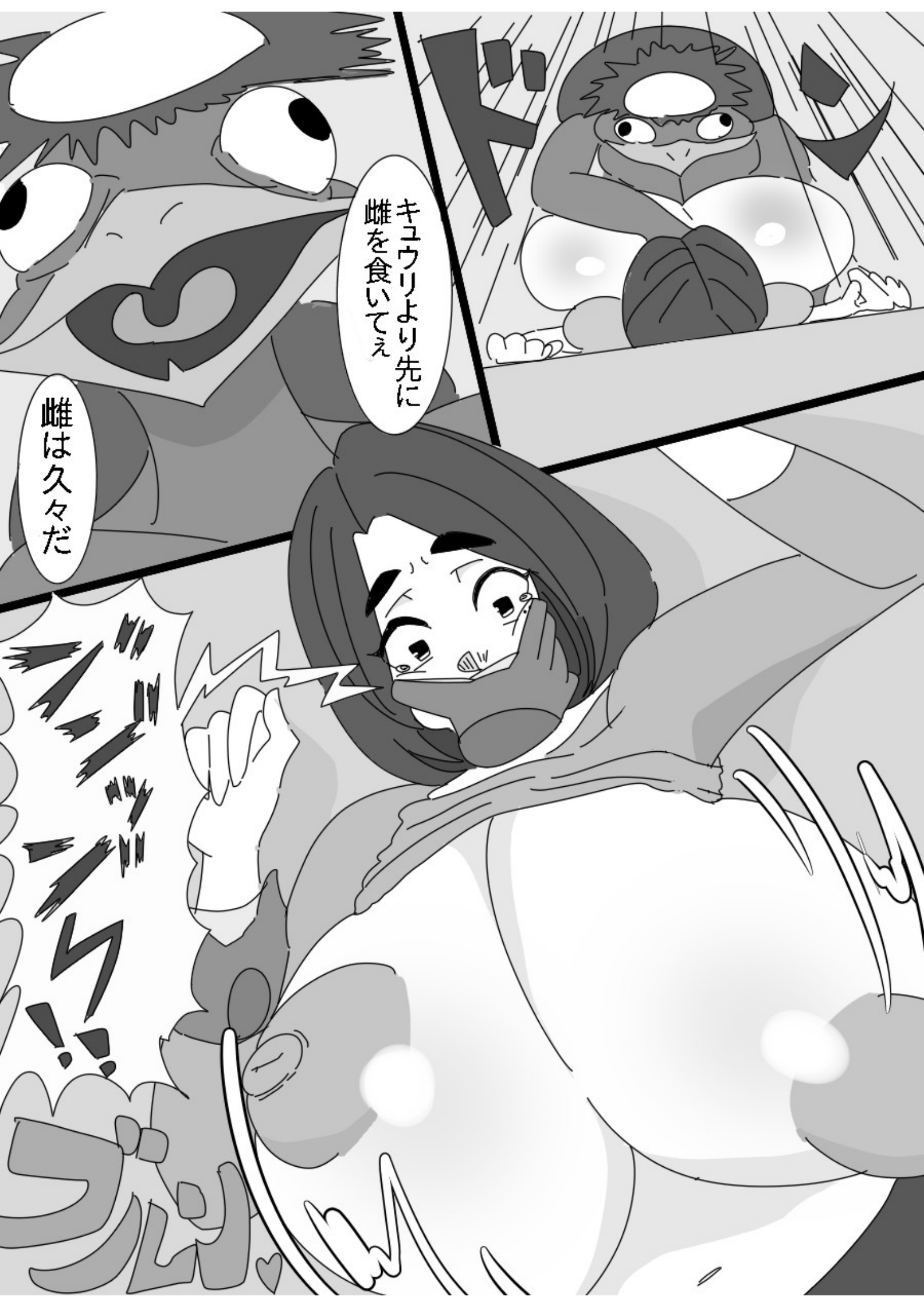
ま

もーおーい

いっ...!!

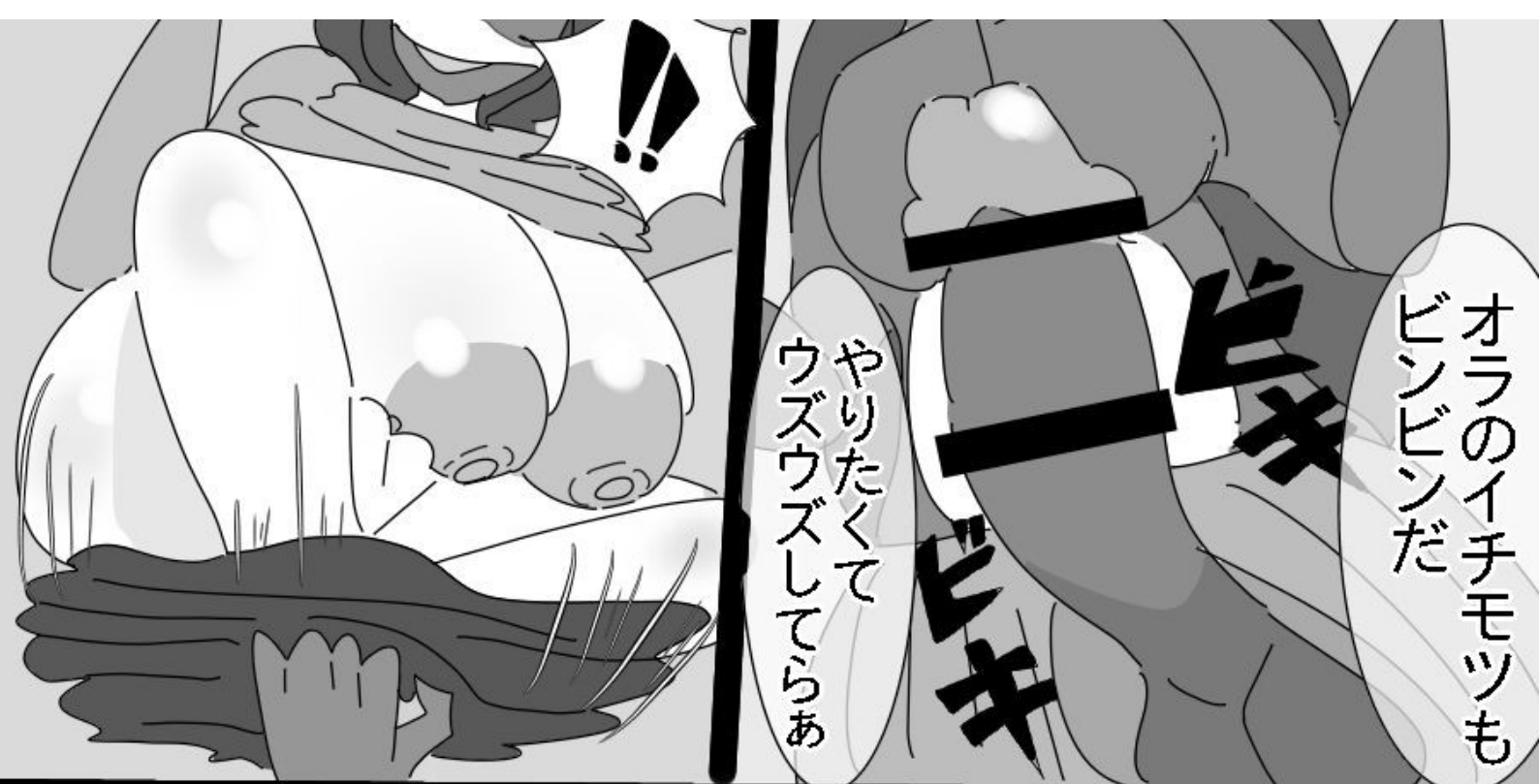
グー





キウリより先に
雌を食いてえ

雌は久々だ



オラのイチモツも
ビンビンだ

やりたくて
ウズウズしてらあ



ジタバタするんでねえ
オメコにずっぱし入れてやっから
大人しく股おっぴろげる

グェ♡

グェ♡



こんなに乳が
暴れてんじや
揉んでやらんと

ドチュ

お願いですっ！
やめてください！
河童様！

なんでもしますから！
こんな酷い事は
お止めになつてください！

ドチュ

どうしてえ！
どうしてこんな
酷い事をなさるんですか！

やめてくださいっ！
河童様！

どうして？

どうしてだって？

おめえが
メスだからだよ
カカツW

ユカ ヲツニユ



自分の姉が
犯されている
姿に涙した

そして気が付けば



姉の悲鳴を聞きつけた村の奴らが
野次馬を作り面白そうに見ていた

誰かっ！

誰か助けてっ！

姉とバケモノとのセックスは
見世物になっていた

どうして誰も
助けてくれないんですか！

お願い！
見ないでえっ！

見ないでえっ！

助けてえっ！

あッ
あッ
アッ
ッ

ズ
バ
ン

そろそろ
出すぞおっ！

嫌っ！

中でしっかり
受け止めるおっ！

いやっ！
お願いっ！
やめて！





.....
さつきから
オメエラ何見てんだ

この雌はオラの肉壺だぞ
手を出したら
承知しねえからな

もし手え出したら
そこに転がつてる
坊主みたいにしてやるぞ

嘘っ.....
こんなの夢よ.....

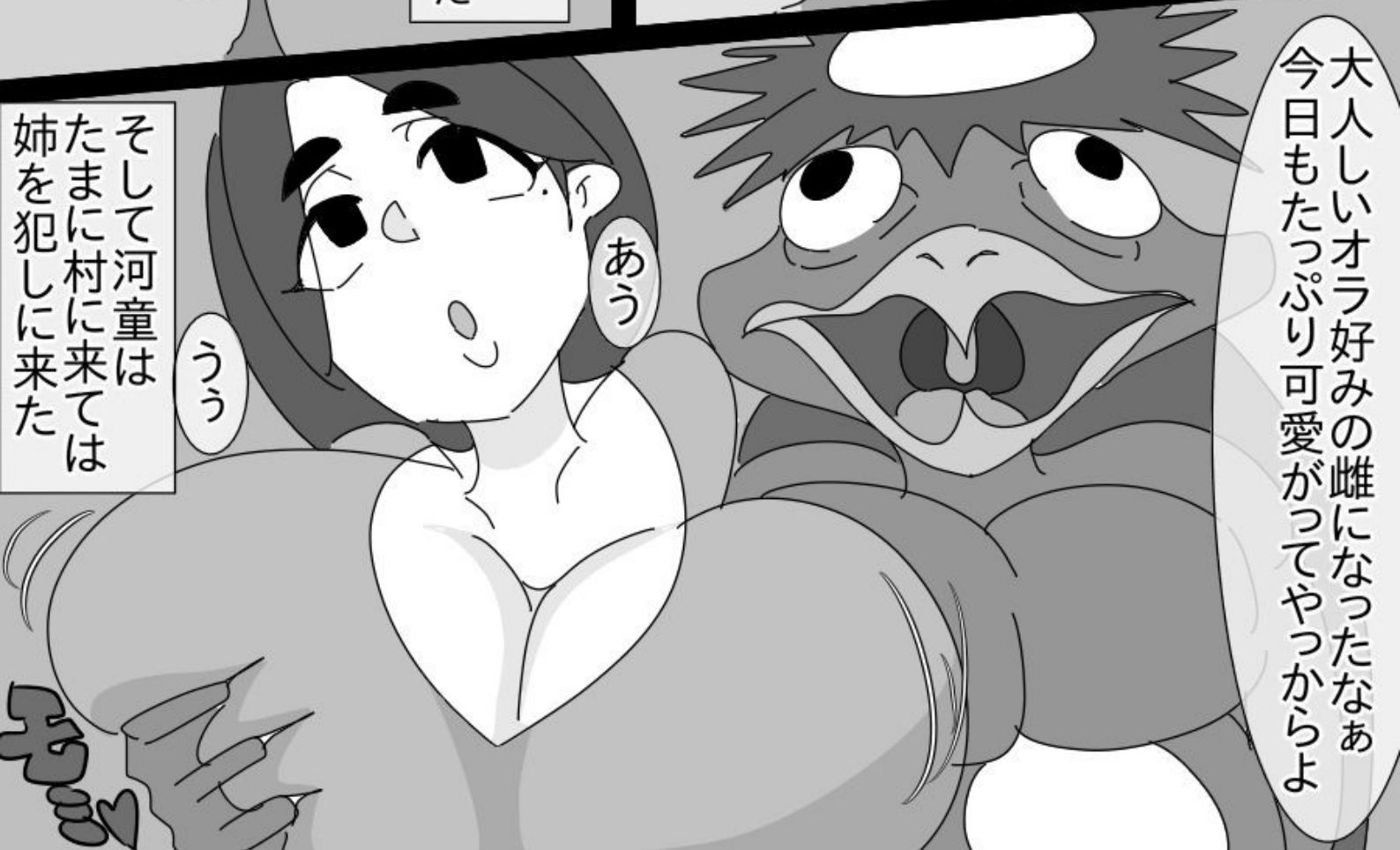
現実じゃないから大丈夫
何もなかった.....
何も起こらなかった...

姉貴はブツブツと
うわ言を言いながら
一向に起き上がる気配はなく
目の焦点が定まらないままだった

家から野次馬と河童が消え
膣から精液が垂れた全裸の姉貴と
ボコボコにされた俺だけが残った

姉は起こった
現実に耐えられず
壊れてしまった

フル



物言えぬ姉貴は
なすが儘に舐められ

うう

河童は嘴で器用に
姉貴の乳房を
甘噛みする様を
僕に見せてくる

クケケツ
おめーの姉貴
感じてるでねえか

あっ

ううっ

坊主
おめーも食うか？

しかし僕にはどうする事も出来ない
電話を使って警察に助けを求めても
河童がいると信じて貰えず
奴が飽きるのを希望にひたすら耐えた

ううっ

時には人として扱わず
姉の尻を玩具の様に扱う

人間のケツで
漬けた
キュウリも
うめーもんだ

ブプ

そんな日々が続いたある日
信じられない事が起きた

いやあ、河童様
無理言っちゃって
すいません

おい……

ケケツ
いいんだよ
オラ、お前が
気に入った!

お前
何やってんだよ

他の奴には
やらせないんじゃない
なかったのかよ!

あー

うー

グヒヒツ
この時をどれだけ
待ったことか

おう!
坊主!

コイツが畑のキュウリ
全部くれるって言うからよ!
オラの雌貸してやってんだよ

よりもよって権田の
糞野郎が姉貴の股間に
男根をあてがっていた

ちよつと頭が
狂ってるのが
残念だけでも

ううー

ああ

この体を好き
出来るんなら構わねえや

お？坊主
まだ目治らねえのか

人間の目ん玉
うめえからよオ

腐っちまったら
オラが食ってやるよ

まあ座って
のんびり見ようや
おめーの姉貴が
犯されるトコ

姉貴は
権田にも
犯されたも

オフ
ア



おお！

予想通りの締りに
ムチムチボディ！

あっ♡

オチュッ

オッ♡

ブル

ブル

目の前で揺れる
爆乳がたまらんなあww



もー
この胸本当に邪魔、
可愛い服も着れないし
汗で谷間が蒸れるし
いい事なしよ

見慣れていた
大きな大きな
姉貴の胸……

村の人間には
絶対に触らせ
たくなかった
姉貴の胸……

おっ♡

あの汚い権田の手で
ガサツに揉みしだかれるなんて

おほっ♡
むっちりとした
柔らかさ！

こんな爆乳ぶら下げて
恥ずかしくねーのか

つちゅ♡
おやすみのキスよ
お父さんと健司にしか
した事無いんだからね♡

寝る前に僕にしてくれたキス
身内にしかキスをした事のない唇
柔らかくて、ほんの少し
いい匂いがした気がする……
あの唇が……

あの脂ぎった口に
下品な接吻を
されるなんて

うん
プニプニ
してるぞお

たつぷり恋人みたいにな
キスをしてやるからな

中年オッサンの
涎をじっくり味わうんだぞ

畜生！
畜生っ！
僕の姉貴だぞッ！

おいおい
コイツ

自分の姉に
興奮してんのかア？

オイ
権田やい

こうですかい？
オラッ！

こっちに寄って
激しく腰を動かせ、
爆乳が干切れる位
揺らしに揺らしまくれ

もっと下品に
乳揺らさねエか！

あっ♡

ん♡

うっ♡

ガン

ボン

オゴッ♡♡

ううっ
姉貴っ

ククッ
面白エなあ

眼前に迫る乳房は
日常で見る
姉貴の胸より
卑猥に見えた

オラッ！
健司！
見とけ！

ウッ♡

フルン

権田に一突き
される度に
甘い声を
確かに上げていた

てめえの姉貴の
バカみたいに
育った乳をよオ！

坊主、
ポコチン見せろや

クカカカカッ！
こいつツーコイツ！
自分の姉貴で
勃起してやがる

権田
その雌の口を
開けてやれ

おい、
坊主

へい！

オメーのポコチン
コイツの口に
ねじ込めや

変態だ！
正真正銘の
ヘンタイだ！





いつ、嫌だ!

つべこべ
抜かすんでねえ!
腰イ突き出せ!

止めるオ...

ほれほれ
どうだ、やわつこいだろ
オメーの姉貴は極上の雌だぞ

はあっ!
うぐぐっ!

思い切って
ぶち込んじゃまえ
気持ちえーぞお

グズグズ

グズグズ

姉貴っ……
姉貴の口……っ！

／アッ♡

／アッ♡

何ー？
お姉ちゃんの
お尻見てるの？

健司は
権田さんみたいに
エッチに育っちゃ
イヤだぞー

姉貴の
ふつくらした
お尻……

今肛門をだらしなく
見せびらかしながら
アイツのチンコを咥えて
ぷりぷり揺れている

よがりやがって！
この雌豚！

僕は……

僕はっ……

もう……

我慢がっ……

淫乱めっ！



ガッ!

姉ちゃん!
お姉ちゃん!
俺の姉ちゃん!

グッ...

グッ...

グッ...

グッ...

ズネ

お姉ちゃんの口
柔らかいよっ！

気持ち良すぎて
すぐ出ちゃうよっ！

ブネ

ううっ！
出る！

ビビ



俺も出すぞう！

しっかり孕めよ！
美鈴う！

お〜っ♡
出るぞ出るぞ
長年貯めた濃厚精子が
若い淫肉に吸収されてイクっ！

はあ…はあっ……
美鈴姉ちゃん…っ！

無意識にアクメしやがって！
本当にイヤラシイ雌だ！
男に犯されるために
生まれた体だぞこれは

ビュッ！

ビュ！

ふう…
俺も歳だな

一発出しただけで
バテしまった

いやあ
権田のお陰で
面白いモンが
見れたなア

坊主、良かったな
お前も姉ちゃんと
ヤレて……
おい、坊主……
聞こえてんのか？

ありやあ猿だな
てんで聞いてねエ

姉ちゃん！
お姉ちゃん！

気持ちいい！
気持ちいい！

また出すね？
また出すよッ！

あゝ気持ちよかった
しばらく隣町まで
風俗に行かないでも
良さそうだ

オイ、権田
早速オメーの畑の
キュウリ食わせろ

女食ったら
腹が減った

あつ……

一心不乱に
腰を動かした僕が

正気に
戻った頃には

姉貴は精液で
鼻提灯を作り、
口からは僕の精液
を垂れ流し、
涙を浮かべていた

涙は恐らく悲しくて
流したモノではなく
口に異物を押し入れたための
人体反応なのだろう、
相変わらず意識なく
「うーうー」言うだけだ

ただ僕には
その時

『やめてよ健司』と
姉貴が言っているように
聞こえてならなかった

姉貴っ……
ごめっ……俺……
なんて事をっ！

どうしよう……
どうしようっ……

自分のした事に
気持ちの整理が
つかなかった、
ただ罪悪感で
胸が一杯だった

汚れた姉貴を
見ながら

そのまま
後退りした

そして気が付けば
僕は真夜中の森を
全力で走っていた

裸足だから足裏が
土と血に塗れていた

あの場にいたら
自分も姉貴と一緒に
頭がおかしくなってしまう様な
気がしてとにかく走った

どこでもいいから
遠くへ逃げれば
嫌な記憶も
遠ざかる様な気がした



自分がどれだけ
走ったかはわからないが
全く知らない町に
辿り着いていた

近くの工事現場の
休憩所で土下座をして

「何も訊かずに
ここで働かしてください」

それだけを繰り返して
頭を地面に
こすりつけていたら

親方は何も言わず
俺を雇ってくれた

気が付けば
貧相だった体には
隆起した筋肉
が付いていた

肌も健康的な
褐色に染まっていた

昔の自分の事など
思い出せない位に
遅しくなった

しかし右目は
あれ以来
視える事は無かった

この目だけは
過去を思い出すから
嫌いだ

もう昔の事など
知らない

完

あの後『何が』
『どうなった』かは
知らないし
知りたくもない